

## 1 実践の概要

実践校・園	秋田市立明德小学校
テーマ	津波からにげる
外部指導者	秋田地方気象台 防災気象官 野村 義浩氏／同 技術専門官 片山 秀昭氏
実施日時	平成24年9月3日（月）10時40分から12時15分まで
実施場所	秋田市立明德小学校 体育館
参加者	児童263名（下学年、上学年の2回に分けて実施） 職員14名

## 2 実践内容

次第・講義内容等	時間 (分)	準備・留意事項等
1 校長あいさつ	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講話の内容や下学年・上学年の実態等について担当者同士で打ち合わせを行い、留意事項を確認した。</li> <li>・事前に講話の概要を児童に提示し、関心が高まるようにした。</li> <li>・活発な質疑応答を通して理解が深まるように、積極的な質問を促したり質問内容について称揚したりした。</li> <li>・講話会終了後、各学級で振り返りを行い、安全意識の高まりを共有し合った。</li> </ul>
2 津波防災啓発DVD「津波からにげる」の視聴	15	
3 気象台の方からのお話 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震が起きる仕組み</li> <li>・津波が発生する仕組み</li> <li>・地震が起きたときの対処</li> <li>・津波から身を守る</li> <li>・地震に備えた準備</li> </ul>	10	
4 質疑応答	10	
5 児童代表感想発表とお礼の言葉（各学年1名）	2	
	計40	

## 3 参加者の感想

児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波のこわさがよく分かった。</li> <li>・津波がきたら、高いところへ素早く避難しようと思った。</li> <li>・津波のときは、一度の避難で安心せずにどんどん高い方へ逃げるのが大事だと分かった。</li> <li>・命を守るために、自分から進んで逃げるようにしたい。そうすれば近くにいる人も一緒に逃げるのが分かったから。</li> <li>・「自分の命は自分で守る」のが大切だと分かった。</li> <li>・軽い震度でも津波が起こることや、2回、3回と繰り返しくることをはじめて知った。</li> <li>・ふだんから地震や津波に備えておくことが大事だと思った。</li> <li>・非常用品を確認して、しっかりと準備しておきたい。</li> <li>・もしものときに、家の中で危険がないかよく見ておきたい。</li> <li>・家族で避難場所を決めて、どこに逃げるか約束しておこうと思う。</li> </ul>
------	--

#### 4 成果と課題

<p><b>成 果</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 アニメやスライド等の使用により、津波のこわさや対処の仕方等について分かりやすく学ぶことができた。</li> <li>2 様々な場所で地震が起きたときに、その場所に合った対処の仕方をシミュレーションできたことが効果的だった。</li> <li>3 真剣に話を聞き、積極的に質問する姿に、防災意識、とりわけ、「自分の命は自分で守る」という意識の高まりが見られた。</li> <li>4 翌日の避難訓練では、その意義や大切さを理解して、素早く、整然と避難することができた。防災教室と避難訓練を関連させて実施したことが、効果的な指導となった。</li> </ol>
<p><b>課 題</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今回は下学年と上学年に2分して実施したが、一緒に受講する児童の発達段階により、講話の内容の理解に差が見られた。次年度は、低・中・高学年に分けてより実態に合った内容にしていきたい。</li> <li>2 下学年、上学年とも、質疑応答の際にたくさんの質問が出たが、予定していた時間が短かったので、全ての児童の質問に答えてもらうことができなかった。“「問い」を発する子ども”の育成の観点からも、余裕をもった時間の設定を心掛けたい。</li> </ol>

